

# 令和2年度 兵庫県立川西北陵高等学校 学校評価

## 1 教育目標

己にうち克つ厳しさと、和して同ぜぬ真の協調とを根源として、豊かな創造性を培い、もって人類・国家・社会に貢献する人間を育成する。  
 校訓：克己・協調・創造  
 生活訓：礼を正し、場を清め、時を守る

## 2 重点目標

校訓・生活訓等、創立時の精神を尊重するとともに、社会の情勢と地域の要望に対応した教育を推進する。

- 自立して未来に挑戦する態度の育成
  - 主体的な進路実現を支援し、自己表現の夢を育むキャリア教育の創造
  - グローバルな視野を持って地域社会に貢献する態度の育成
  - 探究活動や表現活動等、特色ある教育の推進
- 「生きる力」を育む教育の推進
  - 個に応じたきめ細かな学習指導を行い、創造性を引き出し伸ばす教育の充実
  - 自律の心を育て、心豊かで思いやりのある生徒の育成
  - 共生の心を育み、安全・安心な学校環境の整備
- 子供たちの学びを支える仕組みの確立
  - 魅力ある学校を創造し、地域に信頼される学校づくりの推進
  - 「魅えるプロ」としての教師集団の確立

## 4 総合的な関係者評価

- 今後とも、人間形成を目指した、社会教育も大切であり、地域に関わって、清掃などの環境美化活動や地域の行事を活性化するための地域へ貢献する等の教育にも、今後もしっかりと取り組んでほしい。
- ◆「2重点目標」について県の指導の重点に合致していると思われるが、より分かりやすくできないか
- 「3自己評価」について、実施できなかった項目があったが、工夫されて取り組んでいる。もっと、その取組をアピールする必要がある。地域にはまだまだ知られていない。

## 3 自己評価(達成状況取組の空欄は予定していたが中止された項目。)

評価項目	主な取組	達成状況		取組状況・改善方策				
		取組	総合					
① 自立して未来に挑戦する態度の育成	ア キャリア力の育成	①地域と連携した職業人インタビュー	B	B	○職業人インタビューの対象が職種が増え、広範囲に及び生徒の希望に合った内容になっている。社会性の育成にも効果をあげられた。 ○北陵らしいキャリア教育という視点から、進路指導についても在り方を検討する。			
		②キャリアプランを考える進路指導	B					
		③大学・専門学校等の体験講習	B					
		④進路について考える講演会	B					
	イ グローバル力の育成	①地域のコミュニティとの協働学習	B	B	○幼稚園・小学校等地域の施設に直接出向き、事前計画、実施と集団での協働学習が実施できた。 ○海外国の学生との交流はZOOMにより充実した交流を実施した。			
		②世界に視野を広げるJETRO講演会(3月)	B					
		③西豪州高校生との相互交流ZOOM	B					
		④進路について考える講演会	B					
	ウ 探究と表現類型の設置	①コミュニティ力を育む体験活動	A	A	○探究と表現類型は、自立性や挑戦力の育成に大きな成果を上げ、保護者や地域の理解も進んでいる。校内でのアナウンスを強化する。 ○取組を普通型にも拡充するため、特色類型の教育課程を精査し、インタビュー以外の取組成果を波及させられないか検討する。			
		②JICAと連携した異文化理解	A					
		③日本の文化等を発信する英語発表	A					
		④地域課題の解決に取り組む体験活動	B					
② 「生きる力」を育む教育の推進	(7) 知識・技能の習得	①習熟度別少人数授業(数・英)	A	B	○小テストの実施について、その意義を生徒に考えさせ、主体的に取り組ませる。 ○家庭学習課題、長期休業中の補習について、生徒の主体的な取組が課題。実態に応じた内容、分量となるよう、学年ごとに総合的に検討する。 ○臨時休業中の課題配布、授業映像を教材で配信。 ○検定試験の校内実施を今年度はコロナの影響があり外部で実施、受験の意識付けが課題。			
		②SHR(朝礼)での小テスト(国・英)	A					
		③週末の家庭学習課題(国・数・英)	A					
		④成績不振者への面談・補充	A					
		⑤長期休業中の補習(国・社・数・理・英)	B					
		⑥検定試験の受験の推進(国・英)	A					
	(4) 思考力・判断力・表現力等の育成	①授業内容の精選と発展的内容の取入れ	B	B	○教科により、話し合いまで進められなかった。主体的な深い学びにどう結びつけるかが課題。 ○発展的な内容を難し、各教科での連携した授業研究会の開催等、さらなる授業改善を進める。			
		②主体的・対話的で深い学び(全教科)	B					
		③言語活動や表現力を重視した総合学習	B					
		(9) 学びに向かう力・人間性等の涵養	①評価基準・シラバスの公表			B	B	○生徒による授業評価は、一部科目から全科目に拡充した。更に活用するため、全授業での実施や評価結果の統計処理等の方策を検討する。 ○考前前、中以外の日常の家庭学習の定着。
			②生徒による家庭学習の記録			B		
			③生徒による授業評価(全教科)			A		
② 「生きる力」を育む教育の推進	(7) 己心・協調性・創造力の育成		①校訓・生活訓に基づく人間教育	B	B	○学校行事全般について、生徒が主体として、責任感や自負心を持って取り組んでいる。 ○「7部活デー」を活用し、生徒の健康管理、時間管理能力の育成を進める。 ○生徒主体のオープン・ハウスを実施することにより、生徒も学校に誇りを持つようになった。 ○放任せず、コミュニケーションを取る。		
			②年間指導計画を立てたHR活動	B				
			③生徒が主導する文化部発表会(代)	A				
		④自主的・自発的な部活動	A					
	(4) 社会性の育成	①学校いじめ基本方針の改定・実施	A	B	○いじめ対応の基本方針について、年度当初に確認したこと職員意識が高まった。 ○危機管理マニュアルの見直しにより、毎日の生活の中での防災・防犯意識を高める。 ○避難訓練の内容に替えて、防災学習を取り入れ、担任から指導することで、より充実した防災教育になった。			
		②情報モラル等、新たな課題に係る講演会	A					
③ 子供たちの学びを支える仕組み	ア PTAの参画と協働	③認知症サポーター講習会	A	A	○新型コロナウイルス感染症対策として体育大会・文化部発表会を実施、生徒が主体となる運営。 ○スキー修学旅行の代替実施中止。校内及び校外での代替行事の実施予定。			
		④地域清掃等を行う勤労体験(3月)	B					
		⑤マニュアルに基づく危機管理	B					
		⑥防災教育	B					
		(7) 体力の育成	①種目選択別少人数授業			B	B	○研修を実施したことにより、生徒にカウンセリングマインドを持って接することにつながった。 ○WBG Tを意識することで、危機管理意識が習慣づけられた。 ○新型コロナウイルス感染症対策・ストープの使用規定の見直しにより、生徒の健康に対する意識が高まった。
			②生徒が主導する体育大会等			B		
	③スキー実習等を伴う修学旅行		B					
	(4) 健康の増進		①計画的な健康保持・増進	B	A	○新型コロナウイルス感染症対策・マスク配布、消毒液設置や校内消毒用布の着脱。教育活動の改善に力強い支援を得た。 ○PTAが学校の方向性を理解され、主体的な情報発信によって学校を支援し、地域の理解を促進した。		
			②キャンパス・カウンセラーとの協働	A				
			③警察と連携した薬物乱用防止、安全指導	A				
		④WBG Tに基づく熱中症対策	A					
		⑤生徒(保健委員会)による啓発活動	A					
イ 地域への情報の発信		①国際交流等、学校行事への支援・協力	A	A			○オープン・ハイスクールについて、生徒が司会、演劇やショー、動画等のプレゼンを行うことにより、愛校心や達成感等を育成した。 ○学校評議員会を行事とともに定期開催し、学校評価の公表を分かりやすく実施した。	
	②消毒等、教育活動への支援・協力	A						
	③広報誌『北陵』による情報発信	A						
	④学年通信等、PTAと学校の情報共有	A						
	①生徒が主導するオープン・ハウス	A	B		○臨時休業中各教科からの課題の配布、動画配信を実施するなどの学習支援を実施した。 ○主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、初任者研修等と連携した多様な授業研究を実施した。 ○公開授業週間に職員間の授業参観、教科を超えた交流を促進し、教員の資質向上を図った。			
	②保護者や地域に向けた公開授業	B						
③学校評議員会の定期開催(7月1月)	A							
④分かりやすい学校評価の公表(4月)	B							
ウ 学校の組織力・教員の資質能力の向上	①新型コロナウイルスによる臨時休業中の自宅学習支援	A		B				
	②ICT機器の活用研修会実施	B						
	③生徒理解を深める校内研修会	B						
	④人権意識を高める校内研修会	B						
⑤生徒指導員等、HR支援資料の配布	B							

## 5 自己評価への関係者評価

評価項目ごとの評価
●北陵の魅力ある素晴らしい取組をより多くの中学生、保護者、学校関係者を知っていただくことが学校の活性化に大切であると考えている。
●知らない仕事を知っていく。進学先の選択肢の多様性について、大学院への進学や社会人になってからの進学を含め、方向変換も可能であることを生徒に情報提供していただきたい。
●特色類型活動発表会をオンラインで参観したが、英語の発表や落語もあり、完成度の高いプレゼンテーションを見ることができた。中学生や保護者もぜひとも入学したいとの希望を持てよう。
●地域との結びつきを大事にし、地域とともに生きる学校づくり、伝統的な里山と先進的な里山を持つ川西の良さ(持っている力)を活用したい。
●社会人として求められるプレゼンテーションの力を身につける学習をこの時期に実施されている。
●高校に「光るもの」が必要だと強く感じている。地域の課題を高校生が解決する姿が「光るもの」と思っている。さらに、高校生が現在地域が抱えている高齢化や農業への積極的な関わりをお願いしたい。
●今年度はコロナの影響ですべての地域の行事は中止になった。実施できるようにしなければ予定にもあわせていただいているように、実施をお願いしたい。
●日頃の交通安全指導の中で、教員が朝に指導されており、情報提供をいただき地域の安全部会としても協力していきたい。高校生の登校マナーは向上してきているが、継続してより良いマナーを目指してほしい。
●生徒が主体となった北陵の魅力ある素晴らしい取組を、より多くの中学生、保護者、学校関係者に広報することで学校の活性化につなげてほしい。
◆高校は地域の人間が入りにくい場所。地域が学校に参入することで、学校も地域も活性化される。
○地域では、コミュニケーションを立ち上げ学校で抱えきれない問題点を地域と共に表えていくように取り組みを始めている。活用してほしい。
◆生徒が活躍している様子などをHPへの掲載や、広報誌、生徒の活躍を祝した横断幕の設置や校内の掲示から、地域の施設への掲示など学校広報の仕方も考えているのはどうか。
●オープン・ハイスクールを生徒の明るい様子を含め、生徒主体で行っていることが素晴らしい。学校の魅力が上手に伝わっている。
●自分の感情をきちんと相手に表現でき、コミュニケーションや人間関係を高められ、社会人として財産となるような自己表現力を身につけていると思う。